

令和4年第4回渋谷区教育委員会定例会会議録

- 1 開会日時 令和4年2月24日(木)午前10時00分
- 2 閉会日時 令和4年2月24日(木)午前10時35分
- 3 場 所 渋谷区役所4階教育委員会室
- 4 出席者

(委員)

教育長 五十嵐 俊子	委員 坂本 真理子
委員 平岩 国泰	委員 松澤 香
委員 松本 理寿輝	

(事務局職員)

教育委員会事務局次長	富井 一慶
教育委員会事務局次長	小泉 武士
教育政策課長	篠原 保男
学務課長	工藤 和子
教育指導課長	渡辺 浩一
地域学校支援課長	小林 由江
教育センター所長	小林 繁
副参事(特命担当課長)	(教育センター所長兼務)
生涯学習振興課長	熊澤 雄一郎
中央図書館長	勝部 弘樹
学校施設整備調整担当課長	堀江 崇

(書記) 小山 夏紀 伊藤 伸雄

- 5 会議の概要 別紙のとおり

議案第10号 渋谷区組織条例の一部を改正する条例に関する意見について

報告

- (1) 令和3年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果について

[資料1：令和3年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果について]

- (2) いじめ防止対策推進法第28条第1項に基づく報告について

- (3) 学校施設長寿命化計画の推進について

[資料2：渋谷区立小学校・中学校建替えロードマップ]

その他

- (1) 第5回渋谷区立幼稚園の在り方検討会の実施について

議事運営等

- 令和4年第4回教育委員会定例会を開会
- 議事録署名に平岩委員を指名
- 大日方委員が欠席

■ 教育長報告要旨

○ まず、新型コロナウイルス感染症の発生状況についてである。渋谷区民の感染者数はやや減少しつつも、前回の報告以降も、区立幼稚園・小中学校では多くの感染が確認されている。2月10日以降、園児3人、児童250人、生徒33人の感染が確認され、教職員についても、6人の感染が確認されている。また、1月以降の累計としては、園児12人、児童602人、生徒136人、教職員35人となっている。また、2月10日以降の学級閉鎖は、小学校で延べ7校・10学級で生じている。児童・生徒及び教職員に感染を広げないためには、ウイルスを持ち込まない・持ち帰らない・広げないことが重要である。依然として予断を許さない状況の下、学校では、放課後や休日の地域での過ごし方についても児童・生徒に指導するとともに、引き続き、家庭にも感染症対策への協力を求めていく。次に、教育委員会の動向である。2月12日から、松濤美術館において、「2022松濤美術館公募展」が始まった。在住・在勤・在学の方が制作された日本画、洋画、版画などの公募作品の中から、入選作品52点を展示している。2月14日には、第2回学校運営協議会委員等研修会を開催した。元文部科学副大臣の鈴木 寛渋谷区参与を講師に招き、「渋谷区のコミュニティ・スクールの課題」について講演いただいた。「どうして今、コミュニティ・スクールが必要なのか」「今後、コミュニティ・スクールが担っていく役割」など、コミュニティ・スクールを自ら構想し、提案してきた鈴木参与の熱い思いを伺った。また、笹塚小学校荒木校長からは、コミュニティ・スクールの取組が、地域と学校が協働し、支え合う関係づくりの第一歩となることを、自らの実践を基に紹介いただいた。2月16日には、渋谷区立幼稚園・小学校教育研究会の研究発表会が開催された。研究主題を「グローバル社会を生き抜く、夢と志に向かって挑戦する子供の育成」として、1年間の研究について発表があった。2月18日には、笹塚中学校において、令和2年度、3年度渋谷区教育委員会研究指定校の発表会が開催された。この発表会は、渋谷区立中学校教育研究会の研究発表会としての開催でもある。笹塚中学校では、研究主題を「未来社会を見据えた『未来の学び』の創造」として、知識構成型ジグソー法を用いた協働学習を進めるとともに、ドローンやバーチャルリアリティを活用した体験を授業に取り入れるなど、多岐にわたる学びに挑戦する姿が見られた。最後に、2月22日から、令和4年第1回区議会定例会本会議が開催されている。定例会は3月25日まで開催され、継続審査となっている「渋谷区立

図書館条例の一部を改正する条例」についても審議される予定となっている。

◆議案第10号

渋谷区組織条例の一部を改正する条例に関する意見について

—◇説明要旨

(※別紙資料に基づき教育政策課長が説明)

○渋谷区組織条例の一部を改正する条例に関する意見について説明する。前回、定例会において、生涯学習振興課及び中央図書館の移管について説明しているが、これに伴い、渋谷区組織条例の一部を改正する条例の附則第2号において、「渋谷区教育に関する事務の職務権限の特例を定める条例」の一部を改正するに当たり、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第2項」の規定に基づき、区議会から意見を求められたので、この案を提出するものである。なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条では、「職務権限の特例」を定めており、第1項では、条例の定めるところにより、地方公共団体の長は、「図書館、博物館、社会教育に関する教育機関の設置・管理に関すること」や「文化財保護を含む文化に関すること」を、管理・執行することができる旨を規定している。まず、渋谷区組織条例の一部を改正する条例の附則第2号では、「渋谷区教育に関する事務の職務権限の特例を定める条例の一部改正」について定めている。次に、新旧対照表では、これまで、区長が管理し、執行するものとして、「スポーツに関すること（学校における体育に関することを除く。）」及び「文化に関すること（文化財の保護に関することを除く。）」としていたが、生涯学習振興課及び中央図書館の移管に伴い、新たに、「図書館、郷土博物館・文学館、美術館及び社会教育館の設置、管理及び廃止に関すること」を加えている。また、改正前において、「文化財の保護に関することを除く」としていたものを削除し、「文化財の保護に関すること」を含めた「文化に関すること」のすべてを区長が管理し執行するものと規定している。施行日は、令和4年4月1日である。

—◇質疑応答

(松澤委員)

○この移管については、総合教育会議において、区長の意向等も承知しているので、異議はない。教育委員会としても引き続き連携をお願いしたい。

—◇議事結果

○原案どおり可決。

◆報告1

令和3年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果について

◇説明要旨

(※別紙資料1に基づき教育指導課長が説明)

○令和3年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果について報告する。まず、調査の概要についてであるが、本調査は平成23年度から実施されているものであり、子供たちの体力や運動能力の実態を把握し、体力向上等に資することを目的としている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、希望する学校並びに希望する種目のみの任意調査となったが、令和3年度は6月に渋谷区立学校全校、全種目において調査が実施された。実技に関する調査としては、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(小学校)、持久走(中学校)、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ(小学校)、ハンドボール投げ(中学校)となっている。次に、調査結果の概要について説明する。まず、体格についてであるが、身長・体重は、概ね上昇傾向にあった。次に、各種目の得点の合計を表す、体力合計点についてであるが、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度に比べ、全体的に低下傾向が見られた。また、全国や東京都に比べ、合計点が低い傾向にあった。次に、種目別の記録から、令和元年度との比較において、特徴的な傾向が見られたものについて説明する。長座体前屈、立ち幅跳びについては、緩やかな上昇傾向が見られた。一方で、握力、上体起こし、反復横跳び、50m走は低下傾向が見られ、特に、小学校の20mシャトルラン、中学校の持久走は大きな低下傾向が見られた。「令和3年東京都統一体力テスト 渋谷区立学校の状況について」の資料では、より詳細な情報として、平成28年度から今年度までの渋谷区の児童・生徒と東京都、全国との比較を学年別、男女別に示している。令和3年度にあたる「R3」の「全国」の記録は、任意での実施となった令和2年度の記録を参考として掲載している。「比較」の欄の数値は、令和3年度と令和元年度の差(「全国」は令和2年度と令和元年度の差)を掲載している。令和元年度の記録に比べ、令和3年度の記録が伸びていれば、黒字で記載し、下回っていれば赤字で記載している。このことから、比較の欄の数字の赤字が多いほど、令和元年度との比較においてより減少傾向が見られる種目となる。この詳細情報の資料を基に、令和元年度比較において上昇傾向が見られた長座体前屈、立ち幅跳びと、特に減少傾向が見られた20mシャトルラン及び持久走の結果について、説明する。はじめに、比較的上昇傾向が見られた2種目についてである。まず、長座体前屈であるが、小学校の多くの学年で、平成28年度以降、令和3年度の記録が最も高い結果となった。令和3年度の記録が平成28年度以降、最も高くなった学年は、小1男女、小2男女、小4男女、小5男女、小6男子であった。一方で、中学校は全学年において、

減少傾向が見られた。特に、中2男子、中3男子においては、令和元年度に比べ3cmを超える結果となった。次に、立ち幅跳びであるが、令和元年度に比べ、最も高い上昇幅が見られたのは、中3女子の+7.5cmであった。また、多くの学年で、平成28年度以降、令和3年度が最も高い記録となった。平成28年度以降、令和3年度が最も高い記録となったのは、小1女子、小4男女、小5男子、中2男子、中3男女であった。次に、特に減少傾向が見られた種目として、小学校の20mシャトルランと中学校の持久走である。小学校の20mシャトルランでは、小1男女で上昇が見られた。令和元年度に比べ、小1男子は+0.5回、小1女子は+0.2回となった。一方で、小4男女は比較的大きな減少が見られた。令和元年度に比べ、小4男子は-5.2回、小4女子は-4.5回であった。中学生の持久走では、全学年で減少し、特に、中1男女の記録が大きく減少した。令和元年度に比べ、中1男子は-18.8秒、中1女子は-16.8秒となった。最後に、本調査の考察と令和4年度の方向性について説明する。考察として、多くの種目で低下傾向が見られた背景としては、新型コロナウイルス感染症予防により、身体接触を伴う運動等が大きく制限される中での体育授業や体力向上の取組の実施となったことや、社会全体においても様々な活動が制限され、子供たちの運動の機会や時間の減少が体力低下の一因となったのではないかと考えている。各学校では、これまで、日々の体育の授業や部活動、運動会など体育的行事に加え、縄跳び週間や早朝マラソン等に取り組んできた。今回の調査結果を受け、令和4年度の方向性として、3点説明する。1点目は、小学校陸上記録会や中学校陸上競技大会等の連合行事を開催し、自己の記録を更新したり競い合ったりする運動の楽しさを味わわせられるようにする。2点目は、「ジュニアスポーツプログラム」等、専門家から直接スポーツ指導を受けることを通じて、運動を楽しみ技術の向上を図る取組を推進する。3点目は、渋谷ユナイテッドと連携し、生徒が興味関心を持つ様々な運動種目に触れる機会を拡充する。

—◇質疑応答

(松本委員)

○各校の事例は把握できているのか。

(教育指導課長)

○オンラインを活用したダンスの指導を継続した取組事例の報告などは受けている。

(松本委員)

○各校の個別的なデータは把握できているのか。

(教育指導課長)

○把握している。

(松本委員)

○その中で、分析等はされているのか。

(教育指導課長)

○結果を把握しているので、今後しっかり分析していく。

(松本委員)

○社会が変化しているときでもあるので、子供たちの体力面等について、色々なアイデアを持って考えていかなければいけないと思う。工夫をして取り組んだ事例については、シェアしていけると良いと思う。

(教育長)

○ご指摘いただいた点については、しっかり対応していきたいと思う。

(平岩委員)

○全国的に低下傾向にあるので、私は放課後の活用を提案したいと思う。放課後の外遊びを推進する根拠として2点ある。1点目は、人間の体力が一番高い午後4時にしっかり外遊びをすることで、体温が下がっていく中で、午後10時ぐらいには寝られるという良いリズムを毎日作ることができる。2点目は、1日2時間外遊びをすると、近視を抑制する効果もあり、目にも良いという話もある。また、日中の日差しが強い時間帯ではなく、夕方の日差しが良いという面もある。外遊びをする場所については、学校の校庭が一番だと思っている。校庭の利用については、渋谷区においては、かなり活用されていると思うが、土日の活用状況については考える余地があると思う。また、コミュニティ・スクールの人たちが総合調整していただき、校庭がしっかりとくまなく使えるという状況を作れると外遊び環境が推進すると思う。

(松澤委員)

○一方で、皆が集まらないことが感染症対策のポイントでもあるので、個々の対応が求められてくると思う。是非、家庭とも連携をしていただき、体力の向上を図っていただきたい。

(坂本委員)

○全国と比べると渋谷区は全体的に比較欄の赤字が多いことや学校事故報告が増えていることは、新型コロナウイルスの影響により、体力が落ちていることが原因だと思う。また、運動が苦手な子供たちに対して、専門の先生による出前授業のようなものが実施できると運動が身近に感じると思うので、是非工夫していただきたい。

—◇議事結果 -----
○了承する。

◆報告 2

いじめ防止対策推進法第 28 条第 1 項に基づく報告について

—◇説明要旨 -----
非公開

◆報告 3

学校施設長寿命化計画の推進について

—◇説明要旨 -----
非公開

◆その他

(1) 第 5 回渋谷区立幼稚園の在り方検討会の実施について

—◇説明要旨 -----
非公開

議事終了 閉会

上記記載の記録について相違ないことを認め、ここに署名する。

教育長 五十嵐 俊 子

委員 平 岩 国 泰